内海ITU事務総局長
ジュネーブ便り

（2002年5月）

◎内海総局長から

とにかく忙しい毎日で、時間が足りませんが、考えてみれば、ほんの一握りのスタッフでよくこれだけのこと（記録に載っていない部分がたくさんあります）ができると思います。日本と比較して、大変非能率な面と、大変効率の良い面とがあります。日本が何を見習わなければならないか、機会を見て報告します。

◎5月の事務総局長の主な動向

5月6日　WebForce International（ジュネーブ、スイス）

WebForce Internationalは、国連経済社会理事会（ECOSOC）に登録しているNGOで、世界情報社会サミット（WSIS）の準備作業に参加しています。このWebForceの総会が国連ジュネーブ本部で開催され、開会式でサミットハイレベル組織委員会（HLSOC）議長としてスピーチしました。

WSISは、21世紀の「情報社会」について議論するサミットで、「情報社会」の構成員となる政府、民間企業、市民、市民団体、国際機関、地域の意見を汲み取ることが大切です。これら構成員が広く参加するサミットとなりますが、この部分が、従来の政府中心のサミットと大きく異なります。今後、NGOや民間セクターなど、多くの団体がWSISに参加することを期待しています。

5月15日　WSISコンサルテーション会合（ジュネーブ）

世界情報社会サミット（WSIS）に関する政府間のコンサルテーション会合が開催されました。WSISのテーマや予想される結果、ならびに民間セクター等の参加基準など、7月1日から5日に開催される第1回サミット準備会合（Prepcom）で議論される文書について議論され、Prepcomに参加を希望する民間企業やNGOなどは、事前にWSIS事務局に申請して参加承認を得ることが紹介されました。

民間セクター等のWSISへの参加基準は、Prepcomで採択されることとなりますが、各国政府とも、21世紀の「情報社会」では民間セクター等が大きな役割を果たすことを認識していますので、幅広い参加が認められるものと期待しています。

5月16日　ITUテレコム（www.itu.int/ITUTELECOM）ボード会合

ITUテレコムボードは、ITUが開催するITUテレコム展示会およびフォーラムの計画など全般について、ITU事務総局長にアドバイスすることを目的として設置されています。私からは、今年のITU理事会において、技術革新のペースに対応して、またコストを抑えて、ITU世界テレコムの開催周期を4年から3年に変更することについてITUボードで議論するよう要請されていることを説明し、承認されました。

また、2004年のITUアフリカテレコムについて、アルジェリア、エジプトならびにセネガルがホスト国として立候補しており、それぞれの場合の開催費用や運営の効率性などを評価しました。

さらに、2004年に開催予定のITUアジアテレコムのホスト国として立候補している韓国（釜山）から、使用予定の会議場設備などのプレゼンテーションがありました。

5月16日　WSIS政府暫定ビューロー会合（ジュネーブ、スイス）

このビューローは、世界の地域バランスを考慮して選ばれた14カ国で構成され、特に手続に関するWSISの準備について政府間の調整が行われます。日本もアジアを代表してメンバーとなっています。今回は、第1回会合ということで具体的な事項についての議論はありませんでしたが、次回以降、民間セクターの参加問題、サミットの会議構成、予想されるサミットの成果など、政府間での調整が進むものと期待しています。

5月20～22日　ITU戦略計画ワークショップ（重要ネットワーク基盤への信頼確保）および韓国訪問（ソウル、韓国）

ITU戦略計画ワークショップは、ITUの各セクターを横断する電気通信の規制および政策に関する問題、また世界的に注目を集めている最新の問題などについて、今後のITUの取り組み方も含め問題の分析を行う会議で、日本からの特別拠出金も受けて開催されています。これまで、電子認証、IPテレフォニー、携帯電話と固定電話の接続料金、ブロードバンド、3Gなどをテーマにして開催しており、今回は第6回のワークショップとしてネットワークのセキュリティ関連の問題を取り上げました。

日本をはじめ、ブラジル、カナダ、韓国、オランダ、米国などの各国の取り組みが紹介されました。

ソウル滞在中は、韓国の情報通信大臣、KTおよびSKTのCEOとの会談の機会があり、ICTにかける韓国の熱い意気込みを感じました。

5月28～30日　WSISアフリカ地域準備会合（バマコ、マリ）

世界情報社会サミットのアフリカ地域準備会合が、51カ国の政府、民間セクター、市民団体、国際機関など約400名が出席して開催されました。コナレ・マリ大統領、ワッド・セネガル大統領、ガリ前国連事務総長らとともにオープニングでスピーチを行いました。

アフリカの人口約4億人のうち、インターネットにアクセスできるのは約400万人しかいないとコナレ大統領が述べていましたが、アフリカのICTの普及状況は厳しいものです。しかしながら、アフリカ諸国のリーダーたちは、ICTを発展のきっかけとして取り組もうと必死になっています。ITUが準備を進めているWSISが、アフリカのデジタル・ディバイド解消を進めるものと、アフリカの人々が期待していることが実感できました。